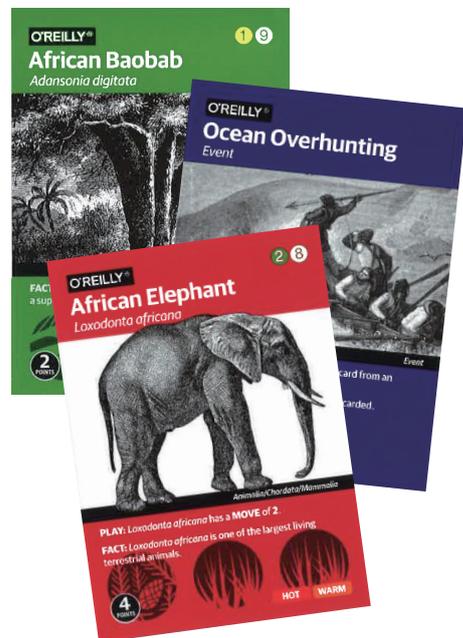


# Phylo

**PHYLO: The Trading Card Game** は、生態系の神秘を体験するゲームです。地球上に存在する、素晴らしく、風変わりな生物種たちを紹介します。山火事、原油の流出、気候変動など、生態系を襲う深刻な脅威についても取り上げます。

**ECOSYSTEMS** (生態系) はさまざまな種からなる複数のコミュニティで、他の種や環境と互いに影響を及ぼしあっています。環境は **TERRAIN** (地勢) や **CLIMATE** (気候) によって決定されます。生態系は、**BIODIVERSITY** (生物学的多様性) によって豊かさを保っています。生物学的多様性は生態系をより安定させ、変動からの回復力を高めます。

**PHYLO** 生態系ゲームでは、プレイヤーが自分自身で作成した PHYLO カードを用いて食物連鎖を構成し、安定した生態系を作りだし、対戦相手の生態系を妨害し、ポイントを稼いでいきます。ゲームは柔軟性に富んでおり、ゲームを自分たちのルールに改編して楽しむことを推奨しています。より詳しいルールや、ゲームのオプション、印刷できる何百もの PHYLO カードを見るには、Web サイト [www.phylogame.org](http://www.phylogame.org) をチェックしてください。



## これが PHYLO カード

1. COMMON NAME (一般名)

2. LATIN NAME (学術名)

3. CARDTEXT (説明)

4. POINT VALUE (ポイント)



5. FOODCHAIN# (食物連鎖番号)

6. SCALE# (スケール番号)

7. DIET (食物)

YELLOW for autotrophs (独立栄養生物)  
GREEN for herbivores (草食性)  
BROWN for omnivores (雑食)  
RED for carnivores (肉食)  
BLACK for other (その他)

8. CLASSIFICATION (分類)

9. TERRAIN (地勢)

10. CLIMATE (気候)

**COMMON NAME (一般名)** : その種を表わすために使われる、簡潔で一般的な呼び名。

**LATIN NAME (学術名)** : その種を示す学術的な名前。もっぱら研究に使われます。

**CARD TEXT (説明)** : 種の素敵な特徴とともに、カードをどのように用いることができるか記載されています。

**POINTS VALUE (ポイント)** : カードを用いたプレイヤーが獲得できるポイント。

**FOODCHAIN# (食物連鎖番号)** : その種の食物網の中での位置を示す。光合成を行う植物は常に FOODCHAIN#1 です。雑食と肉食は、より高い FOODCHAIN# を持つことが多い。食物網の中でどの位置に当てはまるのかに依存します。

**SCALE# (スケール番号)** : その種の大きさ。肉食生物と肉を食べる雑食生物は、数字が同じ、または自分より数字の小さな種だけを食することができます。草食動物と草を食べる雑食性の生物はどんな大きさの生物でも食することができます。

**DIET (食物)** : その種が食べる食物の種類。上記の説明を参照してください。黒のカードの場合、カードに書かれた説明書きを読むべきだという事を示します。

**CLASSIFICATION (分類)** : その有機生命体の学術的な分類。この分類にはさまざまな階層があり、PHYLO では「界、門、綱」のように、最大で3階層を表示します。

**TERRAIN (地勢)** : 生命体が居住する地形的、地質学的な状態。原則的にはその生物がどこに住んでいるか? (下記アイコンを参照)



**CLIMATE (気候)** : その生物がどのような気候を好むか (cold, cool, warm, hot)。生物は複数の気候を好むことがある。

# THE PHYLOMON ECOSYSTEM GAME

対象年齢：8歳以上。

プレイヤー数：2人（4人以上も可。詳しくは Web サイトを参照）

**必要なもの：**それぞれのプレイヤーは、25枚程度のカードでデッキを作る。そこには1枚のホームカードが含まれている必要があります。デッキを自分で作成することもできるし、「スターター」デッキを使う事もできます。2枚のホームカードを取り分けて、残りのカードを2人のプレイヤーでシャッフルします。

## 簡単な遊び方

2人のプレイヤーはテーブルに向き合って座ります。それぞれのプレイヤーは、カード20枚以上の自分のデッキを用意します。プレイヤーのデッキは、自分のカスタムビルドでもスターターデッキから無作為に選んだものでも構いません。

始めに、それぞれのプレイヤーは自分のホームカードをテーブルに置きます。ホームカードは相手のものと互い違いに、隣り合わせて置きます(図の右を参照)。プレイヤーは残りの20枚程度のカードを伏せて、積んでおきます(これを引き山と呼びます)。

プレイヤーは自分の引き山から、初期手札を作る5枚のカードを引きます。PHYLO ゲームはターン制ですので、じゃんけんで先攻、後攻を決めます。

各ターンごとに、プレイヤーは引き山から新しいカードを1枚引きます。そして、以下のアクションのうち3つを選択できます。

PLAY (プレイ)：手持ちの SPECIES または EVENT カードをテーブル上に適用する(「カードを使う」を参照)  
DROP (ドロップ)：カードを1枚捨て、新しいカードを3枚引く  
MOVE (ムーブ)：種のカードを動かす(「カードを動かす」を参照)  
PASSING (パス)：ターンを終える

## ゲームの勝敗

プレイヤーが引き山からカードを引き終えたら、そのプレイヤーのターンは終了し、相手のターンに移ります。

直前のターンで EVENT カードが使われなかった場合、この時点でゲームは終了します。もし EVENT カードが使われていれば、相手のプレイヤーには、これに対応するため1ターンが与えられます。最後に、プレイヤーはテーブルに残ったすべてのカードのポイントを合計します。もっとも大きなポイントを得たプレイヤーが勝者です。

## カードを使う

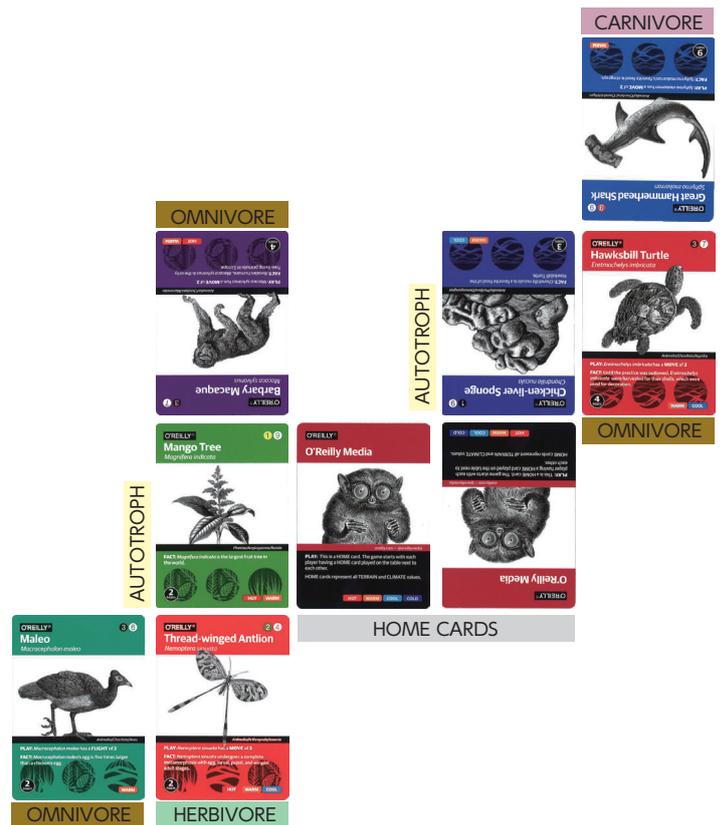
プレイヤーは、自分のカードを常に自分に向けて置きましょう(対戦相手は逆向きに)。どのカードが誰のものなのか一目瞭然になります。プレイヤーはカードを、自分のカードと隣り合わせて置くことも、対戦相手のカードに隣り合わせて置くこともできます。SPECIES カードを並べて置くには、気候と地勢が少なくとも1つずつ同じものでなければなりません。

このデッキに含まれる TERRAINS は以下の通りです(アイコンは裏面を参照)。forest (森林)、desert (砂漠)、freshwater (淡水)、ocean (海水)、grassland (草原)、tundra (ツンドラ)

使われたカードが隣のカードと共存できていない(例：気候も地勢も共有していない)ことが分かった場合、そのカードは移動させるか、ゲームから除かなくてはなりません。

FOODCHAIN#1 カードは、共存できる種の隣であれば、どこにでも置くことができます。FOODCHAIN#1 カードはホームカードの隣にも置けることも覚えておいてください。

FOODCHAIN#2 カードは、共存可能な FOODCHAIN#1 カードが1枚以上ある場合、隣に置くことができます。ほとんどの FOODCHAIN#3 カードは肉食動物で(赤丸で示される)、他に特例のない限り、捕食関係にある数字が同じかより小さいカードの隣に配置できます。雑食動物(FOODCHAIN#3、茶色の丸で示される)は、FOODCHAIN#2 もしくは FOODCHAIN#1 カードの隣に置くことができます。



EVENT カードは、カードに記載された効果を特定のカードに及ぼします。

特別な指示がなければ、EVENT カードは即座に効果を発揮し、テーブルから取り除かれて捨て山に移動します。相手のプレイヤーは、次の自分のターンのみ発生したイベントへの対応策(例：前に説明した3つのアクション)を取り、適応できなくなってしまった SPECIES カードが取り除かれるのを防ぐことができます。プレイヤーは、新しいカードを置いて食物連鎖を復旧したり、イベントの効果を受けたカードを共存可能な位置に移動したりできます。このターンで救えなかったカードは全て、捨て山に移動されます。

## カードを動かす

MOVE# の数値(カードのテキストに書かれている)は、その種がターン毎に移動できる距離を示します。カードは上下左右に動かせますが、必ず他のカードに隣接しなければなりません。鳥類や昆虫など飛翔できる種は、斜めの方向にも移動できます。

## オプションのルール

ゲーム内で共存できる種は、実世界ではそうでない場合があります。これは、地勢と気候が共通しているにも関わらず、これらの種が世界の異なる地域に生息していることが理由だと思われます。もちろん、ある種の餌がとても限られていて、自然界では特定の食物しか食べないということもあります。

これに基づいて、ある種の厳密性、または「ダウト」ルールを取り入れることができるでしょう。このルールでは、プレイヤー同士で、おかしな、またあり得ない種同士の関係を厳密にチェックします(スクラブルゲームで綴りを間違えた単語をチェックするように)。実世界で種同士が共存しているかを調べるには、Wikipedia ([www.wikipedia.org](http://www.wikipedia.org)) や Encyclopaedia of Life ([www.eol.org](http://www.eol.org)) をお勧めします。

この「ダウト」に成功したプレイヤーは、代償としてテーブル上のカードをどれでも1枚取り除くことができます。

その他のオプションのルールは、我々の Web サイト ([www.phylogame.org](http://www.phylogame.org)) をチェックしてください!